

(別紙様式3)

令和2年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 熊本県熊本市中央区水前寺六丁目18番1号
管理機関名 熊本県教育委員会
代表者名 教育長 古閑 陽一

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和元年5月30日（契約締結日）～ 令和2年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 熊本県立上天草高等学校
学校長名 生島 敬史
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

「ひと・もの・資源の宝庫」上天草で未来を切り拓くリーダーの育成

4 研究開発概要

Society5.0に主体的に対応できる地域人材を育成するため、すべての教科で学びの根幹となる「聞く」「話す」「表現する」力を高めるプロジェクトを行う。これらの力を根底に据え、地域や大学等と協働した学校設定科目である「上天草プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ」「地域起業研究」「地域イノベーション研究」を軸としたカリキュラム開発を行い、「ひと・もの・資源の宝庫」上天草で未来を切り拓くリーダーの育成を行う。その際、上天草市内小中高が連携して推進している起業家教育を大きな柱とし、持続的な地域の発展を念頭に、地域全体の意識の変革をもたらし、就業構造の変化につなげることをも目標としている。課外活動についても地域との協働を強化し、「地域の知の最高学府」である上天草高

校の魅力化を推進し、地域への課題意識や貢献意識を持ち、解決に向けて主体的に思考・行動する人材を育成していく。

5 教育課程の特例の活用の有無

「総合的な探究の時間」に替え「上天草プロジェクト」「地域起業研究」「地域イノベーション研究」を実施するため、教育課程の特例を活用する。

6 管理機関の取組・支援実績

(1) コンソーシアムについて

①コンソーシアムの構成団体

上天草市企画政策課、上天草市観光おもてなし課、上天草市危機管理情報課、上天草市教育委員会、上天草市教育委員会学務課、上天草市商工会総務課、上天草市社会福祉協議会地域福祉係、上天草市小中学校校長会、JAあまくさ、天草漁業協同組合上天草総合支所、上天草市区長連合会、天草ケーブルネットワーク(株)メディア事業部、天草四郎観光協会、東海大学、熊本県教育委員会、上天草高等学校。

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年6月28日	コンソーシアムを組織
令和元年6月28日 (第1回)	第1回委員会 ・年間計画等について協議し、活動方針を決定 等
令和元年8月22日 (第2回)	第2回委員会 ・地域人材に求められる能力およびその育成方法について協議し、研究推進委員会に提言 等
令和元年8月27日	地域住民との語り合いへの参加
令和元年10月24日	全国サミットへの参加(委員2名)
令和元年11月1日 (第3回)	第3回委員会 ・学校設定科目のシラバスについて協議し、研究推進委員会に提言 等
令和2年1月10日 (第4回)	第4回委員会 ・上天草市まち・ひと・しごと総合戦略の概要確認 ・次年度事業計画および学校設定科目について協議し、研究推進委員会に提言 等
令和2年2月12日 (第5回)	第5回委員会 ・本年度の事業報告ならびに設定した目標の進捗状況、成果、評価の実施。 ・次年度の事業計画を研究推進委員会に提言 等

※この他、生徒と地域の協働活動の斡旋およびサポートを随時実施。

(2) カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年6月17日	カリキュラム開発等専門家委嘱
令和元年6月18日	事業関係職員とのカリキュラムに関する懇談 学校設定科目の全体における位置付けや3年間の見通し について意見交換
令和元年6月28日	コンソーシアム委員会でカリキュラムの方針等について 説明 本校のカリキュラム全体のねらいと学校設定科目との関 わりについての説明・協議
令和元年7月2日	学校運営協議会及び学校活性化対策本部会議
令和元年7月9日	沖縄県立名護商工高等学校 学校訪問団とのカリキュラム開発についての意見交換
令和元年8月7日	運営指導委員会でカリキュラムに関する説明と質疑応答 本校のカリキュラム全体のねらいと学校設定科目との関 わりについての説明・協議
令和元年8月8日	長崎県立松浦高等学校 学校訪問団とのカリキュラム開発についての意見交換
令和元年8月19日	1学期カリキュラムに関する協議 本校のカリキュラム全体から見た1学期事業の振り返り
令和元年8月20日	長崎県立壱岐商業高等学校 学校訪問団とのカリキュラム開発についての意見交換
令和元年8月22日	コンソーシアムにカリキュラム開発の進捗状況について 説明 本校におけるカリキュラムマネジメントのあり方の協議
令和元年8月27日	生徒と住民の語り合い 成果の検証とこれからの向けて
令和元年8月29日	職員会議 事業の在り方と来年度に向けたカリキュラム開発の取り 纏め 新学習指導要領と学校設定科目の関わりについての説明 ・協議
令和元年10月6日	天草地区高校魅力創造フェス 天草地区高校職員との意見交換
令和元年10月17日	大矢野中学校高校説明会における生徒・職員との意見交換
令和元年10月24日	地域との協働による高等学校教育改革推進事業全国サミ ットへの参加
令和元年10月28日	松島中学校高校説明会における生徒・職員との意見交換

令和元年11月1日	コンソーシアムに全国サミットの報告 次年度における学校設定科目のシラバス案を提示
令和元年11月6日	福岡県立山門高等学校 学校訪問団とのカリキュラム開発についての意見交換
令和元年11月13日	鹿児島県立大島北高等学校 学校訪問団とのカリキュラム開発についての意見交換
令和元年11月20日	学校運営協議会
令和元年11月21日	職員会議 地域との協働による高等学校教育改革推進事業に関する説明と Society5.0 について 本年度のカリキュラムの進捗と次年度カリキュラムについて 学校設定科目と他教科科目の関わりについて説明・協議
令和2年2月5日	研究成果発表会
令和2年2月22～25日	SCHシンポジウム参加

※日常的にカリキュラム開発について担当者との協議・提案をいただいている。

※「地域協働だより」を発行し、地域及び関係各所に配布することで、本事業の普及に努めた。

(3) 地域協働学習実施支援員について

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて
カリキュラム開発等専門家と同一人物

②実施日程・実施内容

(2)の②に記される活動に加えて、

日程	内容
令和元年6月17日	地域協働学習実施支援員委嘱
令和元年6月20日～	学校設定科目「上天草プロジェクトI」 毎週木曜日6時限の授業に参加
令和元年9月19日	生徒の探究活動のためのフィールドワーク先の設定と引率（地元観光業者・市役所）
令和2年1月6日	生徒の探究活動のためのフィールドワーク先の設定と引率（湯島）

(4) 運営指導委員会について

①運営指導委員会の構成員

荒木 朋洋（東海大学 九州キャンパス長）

田中 尚人（熊本大学 熊本創生推進機構 准教授）

堀江 隆臣（上天草市 市長）

足立 國功（熊本ソフトウェア(株) 代表取締役社長、熊本県産業教育振興会 会長）

大倉 尚隆（熊本日日新聞社 上天草支局長）

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年8月7日（第1回）	第1回委員会 ・事業の概要およびコンソーシアムの協議内容の共有 ・事業の取組および計画について協議し、今後の活動について指導・助言
令和2年3月4日（第2回） 新型コロナウイルス感染症 感染拡大防止のため中止	第2回委員会（中止） ・事業報告を書面で郵送 ・事業に対する助言等を書面で取りまとめ

(5) 管理機関における取組について

①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

管理機関として、コンソーシアムや運営指導委員会が活発なものになるよう努めたのはもちろんのこと、本校を「地域に根ざした学校」のパイロット校として位置付け、取り組みの普及に努めた。また、教育長、教育指導局長による学校訪問も実施した。

②事業終了後の自走を見据えた取組について

上天草高校は、平成29年度から総合型コミュニティ・スクールとして学校運営協議会を組織している。学校運営協議会の委員15名のうち9名は、コンソーシアムの委員を兼務しており、本事業におけるコンソーシアムで、地域協働活動やカリキュラム開発のノウハウの蓄積と大学を含めた各機関とのネットワーク構築を進める。事業終了後は、学校運営協議会がコンソーシアムの機能を継承し、学校と地域の橋渡し機能を担う予定である。

③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

特になし

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校設定科目「上天草プロジェクトI」における地域理解講座		2回	1回			1回	1回		1回			
学校設定科目「上天草プロジェクトI」における先進出前講座				1回			1回	1回	2回			

学校設定科目「上天草プロジェクトI」におけるプロジェクト学習			1回	1回		3回	2回	2回		4回	2回	
学校設定科目「上天草プロジェクトI」におけるフィールドワーク						3班				2班		
特別講演会									1回			
地域住民との語り合い				1回								
「聞く」・「話す」・「表現する」プロジェクト					8月から各教科の年間計画作成→アイデアシートの提出→授業実践シートの提出→ルーブリック作成を実施							
研究成果発表会（中間発表等を含む）								1回			1回	
都市部での調査および販売実習									1回			
エキスパート生徒派遣								1回		1回		

※フィールドワークは個別にフィールドワークに出かけた班の延べ数。

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

(ア) 本年度の重点目標「全校的な研究開発体制の確立」

事業の成功に不可欠な全校体制の構築のため、職員の意識を高める取組を実施。本事業に関連する職員研修を3回、研究推進委員会を8回開催した。また、カリキュラム開発等専門家による「地域協働だより」の発行などを通して、職員の意識向上を図った。

(イ) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施

学校設定科目「上天草プロジェクトI」（1年生1単位）を実施した。探究活動の基礎となる知識・技能と地域の課題を発見するための活動に重点を置いた内容となった。地域理解講座6回、先進出前講座5回、地域住民との語り合い1回を開催した。また、地域課題解決のためのビジネスプラン作成に取組み、日本政策金融公庫主催の高校生ビジネスプラン・グランプリ（9月）に17班全てが応募した。さらに、ビジネスプランや活動内容をまとめ、発表することで、自らの活動を振り返り、さらなる探究活動への動機付けを行っている。

12月には、全校生徒対象に特別講演会を開催した。「自分と地域の未来をつくる学び」をテーマに（一財）地域・教育魅力化プラットフォームの奥田麻依子氏による講演会と上天草市長や本校生徒代表を交えたパネルディスカッションを実施し、全校生徒および職員の意識向上を図った。

(ウ) 授業改善

複数教科が「目指す人材像」を共有した授業を行うことで、教科知識に関連性を持たせるため、「目指す人材像」および「具体的能力」の周知・確認を行った。

その後、全教科が「聞く」「話す」「表現する」能力を高めるための年間計画を作成。いわば、「各教科ができること」の集約をおこない、これを元にループリック評価表を作成した。

さらに、「聞く」「話す」「表現する」能力を伸ばす、授業における「小さな工夫」をアイデアシートとして集め、職員間で共有している。これを元に1時間の授業をデザインし実践、報告書としての授業実践シートも職員間で共有する仕組みを構築した。これにより、「小さな工夫」や授業実践の内容を共有でき、さらなる授業改善や教科の垣根を越えた新しいタイプの授業の誕生にも取り組んでいく。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け
(各教科・科目や総合的な学習(探究)の時間、学校設定教科・科目等)

学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」(1単位)を総合的な探究の時間の代替として実施している。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

現時点では、1年生「社会と情報」における「個人の権利」「著作権」「情報発信」とポスター作成の時期を合わせるなど、「上天草プロジェクトⅠ」と他の科目との連動に留まっている。次年度、学校設定科目「地域起業研究」で横断的な学習に本格的に取り組む計画である。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

(ア) 都市(大阪)での調査および販売実習

【内容】

- i. 「島の宝プレミアムマルシェ in 大阪駅」で販売およびパンフレット配布
- ii. 熊本の食材を取り扱う飲食店「熊本 馬源」訪問
- iii. 上天草アンテナショップ「産直野菜ぷちトマト」(池田市)訪問 など

(イ) エキスパート生徒派遣およびワークショップの開催(大矢野中学校)

上天草市における小中高一貫の起業家教育として、大矢野中学校との連携。

1回目は、大矢野中学校の生徒が自ら作成したビジネスプランを高校生に発表。

2回目は、上天草バザールにおいてワークショップを開催。中学生のビジネスプランを元に本校生徒と中学生が協力して磨き上げを行い、上天草バザールの来場者に発表した。

3回目は、高校生のビジネスプランを元に中学生と協力して磨き上げを行った。

(ウ) SCH(スーパー・コミュニティ・ハイスクール)シンポジウムへの参加

東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科主催SCH(スーパー・コミュニティ・ハイスクール)シンポジウムに参加。

⑤成果の普及方法・実績について

(ア) 生徒の成果発表による普及

- i. 本校販売実習「上天草バザール」で中間発表として研究内容のポスター展示。
- ii. 「上天草市地域ささえあい住民フォーラム」で本校の取組と地域課題を解決するビジネスプランをプレゼンテーション。
- iii. KSH(熊本スーパーハイスクール)生徒研究発表会のポスターセッションに参加。
- iv. 政策金融公庫主催ビジネスプラン・グランプリへの1年生全員応募(17本)。
- v. 研究成果発表会2月5日(水)に実施。1年生全員(17班)がビジネスプランをプレゼンテーション。審査員(金融機関や地元経営者)からの指導助言。

(イ) ホームページを活用した普及

本校のホームページ内で活動内容を発信。

(ウ) 「地域協働だより」の作成および配布

カリキュラム開発等専門家が、取組の普及を目的とした「地域協働だより」を作成し、関係各所および地域住民に配布。3回配布。

(エ) 学校訪問による普及

本校からの訪問2校、他校からの訪問8校に対し取組を説明。

(3) 研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

カリキュラム開発等専門家は、「地域おこし協力隊」として上天草市で活動中の者を採用している。文部科学省で非常勤職員も務め、SPH事業等に関わった経歴を活かしながら、学校内(生徒、教職員、授業、部活動、学校行事等)と学校外(地域内外の教育資源、行政、大学、NPO、メディア等)をつなぎ効果的な学習活動を創出する役割を担っている。地域協働学習実施支援員は、カリキュラム開発等専門家と同一の者を指名している。

また、取組の中で出た課題や成果をカリキュラム開発にさらに反映させ、PDCAサイクルの確立を引き続き目指したい。さらに、市内各所との連携はもちろんのこと、上天草市義務教育諸学校配置のコーディネーターとの連携や市の他の地域おこし協力隊員との連携も深め、ネットワークを広げながら、より充実した事業を展開していく予定である。また、専門家には、地域社会のリーダーとして必要となる力が身に付いているかという観点から、授業改善、授業の魅力化に向けて助言も仰いでいる。

カリキュラム開発等専門家と高校で策定したカリキュラムや指導計画に対し、コンソーシアム内の様々な立場からの提言をいただき、事業に反映させ、高校で検証し、コンソーシアムで協議するという役割分担を定める中でPDCAサイクルを確立し、よりよい事業の推進を目指している。

また、その取組を「上天草モデル」として広く普及を図り、本県教育の大きな柱である「地域の子どもたちは地域で育てる」の真の実現に結びつけたい。本事業の成果を「上天草モデル」として確立し、他校、他地域へと次第に波及しつつある。現在県独自で行っている「スーパーグローバルハイスクール」事業や、熊本県スーパーハイスクール指定校合同研究発表会(県内のSSH, SGH, SPH指定校が合同で研究成果を発表す

る会)を活用するほか、各種研修でも取組を紹介している。また、知事部局とも連携し、県の広報誌、広報番組で紹介するのはもちろんのこと、地域おこしの手法として各部各課にも紹介していく予定である。

②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

研究開発を主として担当する職員3人とカリキュラム開発等専門家（地域協働学習実施支援員を兼任）を、管理職中心の「研究代表者会」、教科主任・学年主任で構成された「研究推進委員会」で手厚くサポートする体制が構築されている。今年度は、学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」を実施する1学年団に、研究開発を主として担当する3人を組み込むなど、全校挙げて事業の成功に前進できる体制を整えている。

③学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

研究の成果や課題を検証し、適切な評価を行う「研究評価検討委員会」を設置し、定期的に進捗状況の確認および計画の修正を行っている。また、小規模校であるという特性から「研究代表者会」のメンバーである管理職が現場に参加していることも多く、各事業の進捗状況や計画について意見交換が行われている。これにより、データだけでなく「肌感覚」を伴った研究開発の全体像を学校長が把握し、強いリーダーシップの下、研究開発を力強く前進させることができている。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

前述の通り、コンソーシアム委員会では、育成する地域人材像を共有するとともに、「地域人材に求められる能力およびその育成方法」とワークショップ形式でまとめたものを研究推進委員会に提言している。これを参考に学校設定科目のシラバスや「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトの各教科年間計画づくりが行われていることから、カリキュラム開発に限らず、上天草高校の教育活動全般において、コンソーシアムの果たす役割は非常に大きくなっているといえる。

8 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 目標の進捗状況

①本構想において実現する成果目標（アウトカム）

	項目	2019年度		2021年度 到達目標
		対象以外 2・3年生	対象生徒 1年生	
a	地域に魅力を感じ、愛着を持つ生徒の割合	86.9%	96.8%	90%
b	本校の取組によって、地域の新たな魅力を再発見した生徒の割合	85.4%	93.5%	85%
c	地域の課題を発見し、解決に向けて意欲的に取り組む生徒の割合	66.2%	93.5%	80%
d	将来、地域のために貢献したいと考え、行動する生徒の割合	59.7%	87.1%	75%
e	他者の話をしっかり聞き、理解できる生徒の割合	88.5%	85.5%	90%
f	自らの課題意識をプレゼンテーションし、伝えることができる生徒の割合	48.5%	69.4%	70%

g	高等学校卒業後、地元で就職する生徒の割合	41.9%		65%
h	高等学校卒業後、地元で就業したいと考えている生徒の割合	51.5%	64.9%	60%
i	高等学校卒業後、高等教育機関へ進学し、将来地元に戻って就業したいと考える生徒の割合	33.8%	37.9%	60%
j	上天草高校の教育内容を理解している地域住民の割合 (本校事業に参画した一部の住民による)		86.3%	85%
k	上天草高校のカリキュラムが魅力的だと考える地域住民の割合 (本校事業に参画した一部の住民による)		87.5%	80%
l	本事業が地域の変容をもたらすと考える地域住民の割合 (本校事業に参画した一部の住民による)		83.3%	80%

②地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

	項目	2019年度	2021年度 到達目標
a	運営指導委員会の回数	1回	2回
b	研究代表者会の回数	2回/学期	2回/学期
c	研究推進委員会の回数	0.66回/月	1回/月
d	コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会の回数	1回/学期	1回/学期
e	テーマに沿った研究授業の回数	0.3%	5%/授業回数
f	上天草市に関する地域理解講座の回数	6回	5回
g	高大接続研究の回数	0回	1回
h	プロジェクト学習の回数	15回	10回
i	研究成果発表会の回数	1回	1回
j	班毎の調査研究の本数	1本	1本
k	班毎の調査研究に対する大学教員等の外部指導者による指導回数	5回	10回
l	本校生徒を「エキスパート生徒」として授業に参加させ、起業家教育における課題研究についてアドバイスする延べ人数	31人	20人
m	高校生ビジネスグランプリへの応募（日本政策金融公庫主催）	17本	5本
n	I C Tを利用した隔地者間のコミュニケーション（WEBミーティング、WEBディスカッション）の回数	0回/学期	1回/学期
o	国内大都市及び地方都市におけるマーケティング調査及び販売実習の回数	1回	1回
p	全国サミットへの参加回数	1回	1回
q	本取組専用HP開設および更新回数	0.6回/週	1回/週
r	研究開発実施報告書の作成回数	1回	1回
s	上天草市報の広報特派員の取組による紙面掲載回数	5回	5回
t	高校生による天草C A T V（天草地域のケーブルテレビ局）での番組制作本数	0本	1本
u	観光協会が所有するキッチンカーによる、開発した商品の販売回数	1回	2回
v	本事業（現在の本校の取組）が魅力的だと考える保護者の割合	86.5%	85%
w	本事業（現在の本校の取組）が魅力的だと考える生徒の割合	91.4%	85%

③地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）

	項目	2019年度	2021年度 到達目標
a	コンソーシアムの活動回数	5回	6回
b	地域理解講義の講師数	12人	10人
c	プロジェクト学習の語り合いへの参加数	36人	80人
d	地域住民等の研究成果発表会への参加数	30人	100人
e	上天草バザールにおける協力者、来場者数	1,856人	2,100人
f	福祉科の実習等に携わる事業所等の数	16事業所	22事業所

(2) 成果および評価

①政策金融公庫主催第7回高校生ビジネスプラン・グランプリ学校賞受賞

1年生全員（17班）がビジネスプランを作成し応募したところ、「起業教育の推進を熱心に取り組んでいる学校」として学校賞を受賞することができた。

②1学年生徒の変容

(1)の①「本構想において実現する成果目標（アウトカム）」で挙げた数値だけでなく、7月実施の「高校魅力化評価システム」においても、他学年に比べ1年生の数値が軒並み高くなっている。これが本事業の成果であるかどうかは、次年度の数値との比較が必要であるが、少なくとも職員は手応えを感じている。

<添付資料>目標設定シート

9 次年度以降の課題及び改善点

(1) 生徒の活動時間の確保（内容の精選）

学校設定科目「上天草プロジェクトⅠ」において、地域理解講座などのインプットと成果発表やビジネスプラン・グランプリへの応募などのアウトプットの機会は確保することができた。しかし、インプットされた内容をじっくりと熟成させる時間を確保できていなかった。次年度は、内容を見直すとともに授業時間を確保することで、じっくりと探究活動に取り組む環境を整備する。

(2) 「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトの充実

本年度の授業改善への取組は、準備と計画が中心で成果を残すことができなかった。次年度は、ルーブリックを全教科共通の目標に掲げ、新しい授業の開発に取り組む。また、各教科のシラバスの見直し、教科間で関連する単元の学習時期を連動させるなど、教科横断型の授業開発を進めていく。

(3) 大学との連携強化

今年度は、(1)で述べたように、生徒がじっくりと探究に取り組む時間がとれたとはいえず、大学等の専門機関と連携するような場面を創り出すことができなかった。次年度

は、上天草プロジェクトⅡでじっくりと高度な探究に取り組むことが可能と考えられるので、新たに大学との連携強化にも努めていきたい。

(4) ICT を活用した新しい学びへの挑戦

本年度は、Classi を導入し、オンライン学習システムを活用した自学力育成を開始できた。しかし、当初の ICT を利用した、大学の先生方や熊本県内に配置されている指導教諭との T T などを遠隔等で行い、教員の指導力向上を図る計画は、十分な環境が整備できず ICT を利用する機会をつくることができなかった。次年度は、授業だけではなく、遠隔地とのコミュニケーション手段としても、ICT の利用を推進していく。

(5) 地域学習実施支援員並びにコンソーシアムの機能継承

事業終了後に向けて、地域学習実施支援員並びにコンソーシアムの機能を総合型コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会等が継承するための準備をする。

【担当者】

担当課	熊本県教育庁教育指導局高校教育課	TEL	096-333-2685
氏名	釜賀 健司	FAX	096-384-1563
職名	指導主事	e-mail	kamaga-k@pref.kumamoto.lg.jp